



株の増殖技術の指導を受け実践する村人

(特非)日本ハビタット協会

ラオス国における 現地主体の環境保全活動の 運営管理体制の構築

一般助成

2年目

実践

住民主体の
植林面積

15ha

苗木育成活動が
行われる学校数

13校

活動の全体目標に
対する達成度

90%

課題

生活に欠かせない自然資源が失われつつあるが、環境保全に対する意識や実践のための知識が乏しく、資金的な余裕もないため、環境保全活動が進んでいない。

目標

人々の暮らしや自然を守るため、現地主体の持続的な環境保全を行う。事業終了後も地域の自主性により継続するように、意識向上と管理体制の構築を行う。そのために人材育成と持続性を確保する資金を生み出す。

活動内容

2年間で計15校、4,255人に対してワークショップを行い、作成したポスターを掲示することにより、参加者だけでなく他校や地域の環境意識も向上させた。また、住民が植林を続けられるよう現金収入につながる果樹等の植林を行い、さらに樹木を新しく購入せず安価で植林が行えるよう苗木の増殖技術を指導した。本事業での植林、増殖面積は2年間で75.99haとなり、技術習得者が他の村人へ指導を行っている。



各地区において活動の
引き継ぎ式を実施

達成できなかったこと

株の増殖技術を習得した村人による自主的な波及が期待できるが、習熟度に差があり、他人へ教えるのを躊躇したり、他の村人が関心をあまり示さず波及していない村もあった。

今後の展望

本事業で技術を習得した村人から活動の波及が予想される。隣接するセニャブリー県でも事業を展開していく。

成果と工夫した ポイント



成果

協力団体・機関の特性を生かし、現地主体の管理体制を構築した。農業局員による株の増殖技術指導の参加者は、28年度には8村50人に達し、増殖面積は18.83ha、増殖本数は2,322本に至った。

工夫

住民が自主的に活動を継続できるよう、現金収入につながる果樹の植林、株の増殖技術の指導を行った。